

# 牛久：学校周辺に見る自然

第26号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月11日発行

## ＜ 動物のすみか ～ ② ハチ ＞

こんにちは。9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はハチの仲間<sup>なかま</sup>です。



ヤブガラシ(雌性期)の蜜を吸うヒメハラナガツチバチのめす。めすは土をほるので、大あごが発達<sup>はつたつ</sup>している(右下)。



つる植物ヤブガラシの花には、いろいろなハチやチヨウがやって来ます。こちらはヒメハラナガツチバチ。触角の長い方がおす。また、めすは土の中にあるコガネムシの幼虫に卵を産みつけるために穴をほるので大あごが発達しています。なおヤブガラシは咲き始めは雄しべが成熟(ゆうせいき)し(雄性期)、後に雌しべが成熟して雄しべが落ち(しせいき) (雌性期)、同じ花での受粉をさけます。

ヤブガラシ(雄性期)の蜜を吸うヒメハラナガツチバチのおす。



ヤブガラシには、スズメバチのなかまもよくやって来ます。こちらは特にこわいオオスズメバチ。他の昆虫をおそって食べるハチとして知られますが、花の蜜も吸います。

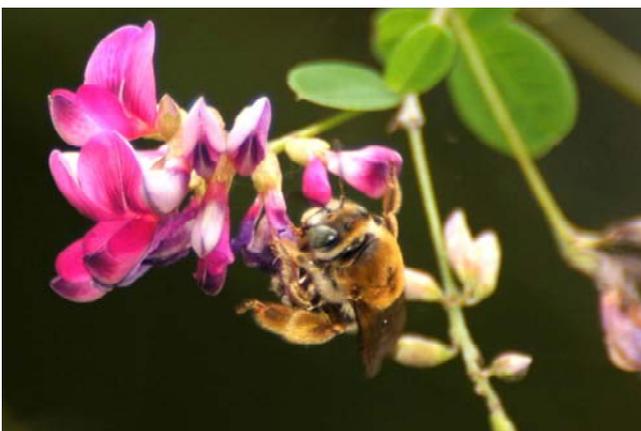
ヤブガラシの蜜を吸うオオスズメバチ。



ヤブガラシの蜜を吸うキオビコシフトヒメバチ。

こんな小さなハチもいました。キオビコシフトヒメバチ。名前もかわいいですが、他の昆虫のさなぎや幼虫に卵を産みつける寄生バチのなかまです。

マルバハギの花でも、トラマルハナバチやヒメハラナガツチバチなどが蜜を吸っていました。



ハギの蜜を吸うトラマルハナバチ(左上)とヒメハラナガツチバチのおす(右上)、ニッポンヒゲナガハナバチのめす(下)。



ハッカの蜜を吸う、ヒメハラナガツチバチのおす(左)と、ニッポンヒゲナガハナバチのめす(右)。

ハッカの花でも、ヒメハラナガツチバチやニッポンヒゲナガハナバチが蜜を吸っていました。



ヒメハラナガツチバチのおすが、カタバミ(左)とニラで(右)花の蜜を吸っていた。

この日、ヒメハラナガツチバチはもっともよく見られました。カタバミやニラの花でも蜜を吸っていました。触角が長いのがおすで、よく似たハチにキンケハラナガツチバチがいますが、おすの場合は胸部背側に写真のようなヒトの目と口に似た黄色いもようがあるので簡単に区別できます。



ブタナの蜜を吸う、とても小さなハチ。

その他名前は分かりませんが、小さなハチがブタナの蜜を吸っていました。黄色い花が好みのようですね。また、ハグロハバチの幼虫がギシギシの葉を食べていて、中には葉脈だけのホネホネ状態になってしまった葉も見られました。すごい食欲ですね。

【理科支援員：宮内】

ギシギシの葉を食べる、ハグロハバチの幼虫。